

# はじめに

東京都の中央卸売市場は、産地と消費地の結節点として、東京のみならず広く首都圏全域に生鮮食料品を供給し、流通の中樞拠点として機能しています。

市場内では日々旺盛な取引が行われていますが、商品を運搬する自動車が出す排気ガス、生鮮食料品を保管する冷凍冷蔵庫が消費する大量のエネルギー、商品の仕分に伴って発生する廃棄物など、市場における取引活動は、環境に大きな負荷を与えています。

東京都と市場関係者は、この現状を重く受け止め、相互の協力の下に一貫して環境に優しい市場づくりを進めています。この白書は、中央卸売市場の環境の現状を述べるとともに、自動車排出ガス対策、省エネ・省資源対策、廃棄物対策など、現在行っている環境負荷軽減に向けた取組の内容を明らかにするものです。

また、一連の「食の安全・安心」を脅かす事件の発生等により、食品の安全性に対する消費者の関心はかつてないほど高まり、より安全・安心な食品を求める声もますます大きくなっています。東京都と市場関係者は、消費者の要請・関心に応えるべく、市場を流通する商品の品質管理の高度化や衛生対策に努めており、この白書はそうした取組の現状についても紹介しています。

生鮮食料品の生産、流通、小売をめぐる環境が大きく、かつ激しく変化する中で、中央卸売市場も、時代のニーズに合わせ自らを変えていくことが必要です。そして、今後の中央卸売市場がどうあるべきかを考える上では、「環境負荷の軽減」「食品の安全・安心の確保」は、欠くことのできない重要な視点です。

この白書が、多くの都民の皆様、市場関係者の皆様の目に触れ、中央卸売市場における環境問題、食の安全・安心の問題を、共に考える一助となれば幸いです。

平成 20 年 5 月

東京都中央卸売市場長  
比留間 英人